

【富士見れば北斎倣う元気沸き 七十後半生きむとぞ思う】



葛飾北斎が富嶽三十六景（人気好評で十枚追加し全四十六図）を書き始めたのは、なんと七十二才の頃とのこと。何枚も書き連ねていく中で、傑作と言われる版画がいくつも生まれた。



特に三大役物と言われる

ものが、「凱風快晴」「山下白雨（さんかはくう）」「神奈川沖浪裏」である。

十一月中旬、友人に誘われて出向いたゴルフで富士に接したとき、「今日のゴルフもスコアはボロボロだが、涙ポロポロこぼさず生きていこう」「70 才過ぎてから頑張った北斎のように、自分の好きなことに打ち込んでガンバろう」「お写落日記も書き続けられれば、快作・傑作が生まれるかもしれないよ」という声が聞こえてきたような気がした。聞き違いかも知れないが・・・

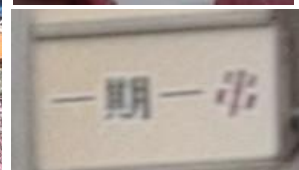
ということで、来年もまた元気にお写落日記を書いていくことを富士に固く誓った。

楽しみはあちらこちらと足運び 写真撮っては日記書くとき
七十五越えても日記書きまくる 固く誓った巳年年の瀬

【久しぶり台湾料理出かければ 飛んで目に入る四字漢字かな】

14 日の日曜日、渋谷道玄坂二丁目の「麗郷」でランチミーティングを行うべく、開店 12 時の 30 分前から並んだ。先着が 8 人グループで我々は二番目。開店十分前 7, 8 組が並んだ頃にドアが開いて着席。それから 1 時間半ほどゆったり美味しく頂くことができた。

並んでる時にあちらこちらの看板を眺めると、麗郷の看板には四字漢字が三つもある。「台湾料理」「大小宴会」「随意便菜」。最後の随意便菜は野菜料理何でもありますなのか、と思った。周りの店も結構洒落で宣伝している。寿司屋は「厳選素材」「一貫入魂」で、焼き鳥屋は「一期一串」だ。



麗郷の店内に大きく「紅焼甲魚」とあった。家に戻って調べると、美味しそうですね。

1. 紅焼甲魚（ホンシャオシェンユイ）は、中国料理の代表的な料理で、甲魚（すっぽん）を醤油で煮込むスタイルの料理。醤油の甘辛い味付けが特徴で、旨味が染み込んだ煮汁が非常に美味しい。

巷には駄洒落商売溢れてる 笑売繁盛千客万歳
楽しみはあちらこちらと足運び 旨いもの食べ語り合うとき